

行仙宿補給路の資材運搬とモノレール運転座席取り付けなど

◇実施日 8月13日(火) 晴

◇参加者 湯川一郎、梶野照雄 2名

モノレール終点先の拡幅工事に使用する資材(木板・杭)を補給路登山口まで運ぶとともに、行仙宿玄関脇等に掲示している大峰手拭いのパウチを外しに出向いた。この杭(測量用プラスチック製L型)は、初代世話人代表の玉岡さんから引き継いだものだ。沖崎代表から聞いた。

モノレールの荷台に資材を積み込み、あとから来る梶野さんに終点まで運んでもらうこととした。補給路登山口脇の流し台を見ると、平時よりかなり水量が少なくなっていた。



運搬した資材



水量は少ない



外したパウチの一枚(右側)

行仙宿小屋に着き、玄関脇の窓ガラスと竈横に張られたパウチを外し、備え付けのノートを読むと、前日、坂野良さんが持経宿まで水を運んだことが記されていた。なんとまあ、この暑い時期にと思いつながら、これこそ「行」だと感心した。

午前中に帰宅するつもりだったので、10時前に補給路登山口に下山、しばらく梶野さんが来るのを待っていたが、どこかですれ違おうだろうと思いついた。国道425号の距離標380付近で梶野さんの車が上ってきた。聞くとお盆で渋滞し30分程余計に時間がかかったようだった。その後、12時前に沖崎代表宅に着き、報告し家に帰った。

(記：湯川)

行動タイム

補給路登山口 07:54→08:43 行仙宿 09:24→9:58 補給路登山口

11日にモノレールの運転座席が外れているのが見つかり、児嶋さんからも「座れないので直してくれ」と注文があったので、座席の取り付けをメインに行仙宿に向かった。前日に湯川君も行仙宿に行くご連絡があった。

午前7時に家を出たが、盆休みで車が多く、吉野を過ぎるまでに30分ほど余計に時間がかかった。浦向からR425に入ってカナウナギトンネルを過ぎたところで、降りてきた湯川君と出会った。帰宅する湯川君から引き継ぎを受けて登山口に着く。

最初にモノレールの運転座席を取り付ける。取り付けボルトはお尻が当たっても違和感がないよう、平丸頭のボルトを用意した。また、のちの交換がやりやすいようにステンレスボルトにした。座面にはボルトの穴を開けてきたので、ボルトを差し込んで締めるだけの簡単な作業だった。



モノレールの運転座席取り付け

チェーンソーと燃料2リッターなどを積んで終点に向かう。モノレール終点小屋に湯川君が持ってきた板や杭を降ろして小屋に向かった。行仙宿に着いて倉庫からチェーンソーを出し、水場径の途中に残っていた丸太を板に切る。切った板を補給路まで運び、小屋南にデポしていた丸太も板に切った。作業中に話し声が聞こえたので小屋のほうを見ると外国人のカップルが小屋に到着していた。吉野から女人禁制区間をワープして本宮を目指しているそうで、今日は玉置神社でテン泊するそうだ。水を提供してチョコレートを買った。二人を見送り板引きを続ける。

10枚ほどの板を作って作業を終えた。

戸締りを確認して下山、モノレール終点で丸太3本を半割にして登山口に降りた。
(記：梶野)



板など降ろす



製材



休憩する縦走者



製材終了



行動タイム

10:35 補給路登山口 → 12:03 行仙宿 14:58 → 15:15 モノレール終点
15:45 → 16:02 補給路登山口